

巻末資料



倒壊家屋（平成28年熊本地震・益城町）

家屋の撤去スピードにより、随時廃棄物が発生することになります。



流木・土砂（平成29年九州豪雨）

流木は処理先の早期の確保が、土砂は仮置き場の早期の確保が求められます。



街中での災害廃棄物のごみ出し（平成28年熊本地震・熊本市内）

仮置き場をステーション方式に設定した場合、街中にごみが
あふれることになるため、迅速な回収が必要となります。



1次仮置き場	1次仮置き場（搬出待ち）※1
次々に廃棄物が持ち込まれるため、効率的な置き方に工夫が必要になります。	廃棄物の積み上げすぎに注意（発火の危険があるため、5m以内が望ましい）。



2次仮置き場	生活系ごみ
効率的に処理できるレイアウトを検討する必要があります。	被災後は、どのように収集するのか早期のアナウンスが重要となります。



避難所ごみ※2	仮設トイレ
避難所は衛生状態も悪化しやすく、物資の配布だけでなくごみの収集の手配も重要です。	くみ取り・衛生管理も必要ですので、どこにいくつ設置されたか把握するのも重要です。



混合廃棄物	可燃系混合物
効率的に処理を行うため、できるだけ混合状態にならないように注意が必要。	可燃物の腐敗・発酵に注意が必要。



不燃系混合物	木質系ごみ
なんでも不燃物として集め、結果として混合状態にならないように注意が必要。	保管中の温度上昇・火災発生に注意が必要。



土砂系廃棄物	土砂系廃棄物
乾燥後の飛散防止を考える必要がある。	土のうも時間経過とともに破れが生じる。また、再生利用のためには土のうを取り除く必要がある。



廃木材・柱角材	割れ物（ガラス・陶器）
CCA使用が判明したものはリサイクル不適のため、分ける必要がある。	割れたものが飛散し怪我をないよう、レイアウトや囲いを工夫する。



コンクリートがら	置
リサイクル先に搬出するためには他の物質の除去・破碎などが必要。	悪臭を発生する場合があるほか、積み上げ過ぎなどによる発熱からの火災にも注意が必要。



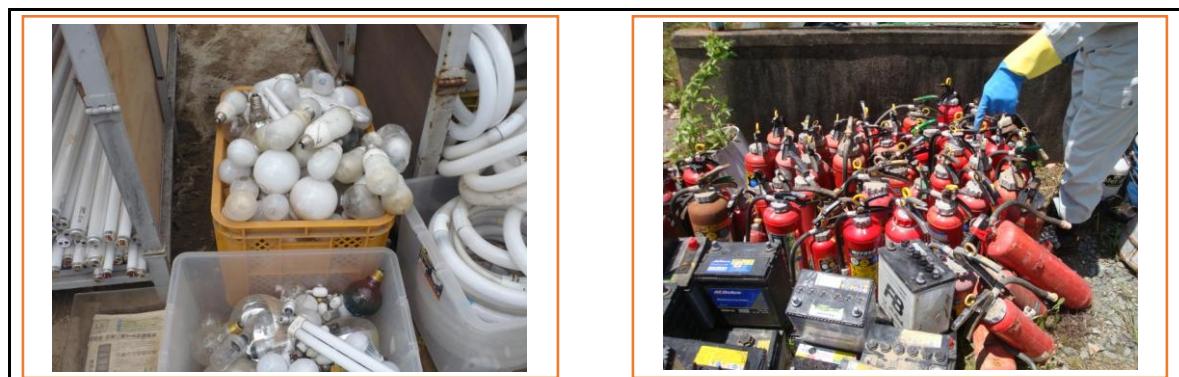
金属類	タイヤ
スクラップとして売却することが多い。	溜まり水から蚊が発生することがあるため、シート掛け、害虫駆除などを検討。



ソファ・マットレス等	廃家電
悪臭を発生する場合があるほか、積み上げ過ぎなどによる発熱からの火災にも注意が必要。	自治体にてリサイクルを行って頂く形に。また、1カ所に集めた後の盗難にも注意。



ブラウン管テレビ	自動車
退蔵品の搬出には注意（この際何でも出して良いという誤解を与えないよう）。	平置き保管の場合、広大な敷地が必要。また盗難対策、オイルの漏れ監視なども必要。



蛍光灯	消化器（危険物等）
管が割れないよう丁寧な扱いが必要。	爆発の危険があるため、管理に注意が必要。



ガスボンベ (LPガス)	電池類
周囲に可燃物のない場所に集積し、極力早めに処分することが望ましい。	リチウムイオン電池は雨ざらしにすると危険。



廃油等	化学物質
周囲に可燃物のない場所に集積し、極力早めに処分することが望ましい。	漏出防止のほか、酸、アルカリごとに分ける。



中身が判明したものは、化学物資を扱う産廃処分業者に委託し処分をする。



化学物質（硫酸）※3	化学物質（硫酸）※3
化学物質を扱う産廃処分業者に委託し処分。	津波の後、地面に埋まっていた事例。



PCB廃棄物	太陽光パネル
専用のケースにて保管するなど、PCB漏れに注意が必要。	処理できる業者を探す必要があるため、それまで管理が必要。



バッテリー類	布団類
内用液が漏出しないよう注意が必要。また感電防止のため露天保管は避ける。	発火だけではなく悪臭の発生にも注意。また、水害の場合、畳や布団は重量が大幅に増すことになる。



スレート材	石膏ボード類
飛散防止の必要がある。	フレキシブルコンテナに格納し保管することが望ましい。



シート類	コード類
飛ばされないよう、レイアウトに注意。また、破碎機内で巻き付かないように、除去が必要。	金属類と同様。盗難防止が必要。また、破碎機内で巻き付かないように、除去が必要。



漁具類	思い出の品
仮置場の塩害防止のため、舗装された場所に保管することが望ましい。	1か所に集約し常設展示をするのが望ましい。



仮置き場分別配置図	立て看板
入口付近にわかりやすく掲示し、分別に協力してもらう。	運転手から明瞭に判読できる大きさで表示する。



収集の様子	街中の混合状態のごみ
地元以外の応援者による収集も多い。	早期撤去が望ましい。



仮置き場までの渋滞の様子	仮置き場に集まるカラス等
場外にも渋滞が伸びると他の交通の障害になることから、配置や搬入方法を工夫する。	近隣苦情の原因となるため駆除を検討する。



手選別	機械選別
作業員の負傷防止のため装備を整えさせる。	騒音の影響の少ない場所に設置する。



仮置き場に埋もれたごみ	内部温度の確認
爆発のおそれがある物が埋もれていることも考慮し手作業が必要なこともある。	積み上げた廃棄物の内部は高温となるため、常に温度管理を行い、発火を防ぐ。



火災発生の危険性※3	処理完了
温度上昇による火災に注意が必要。写真は炎上中の状況。	土地の原状回復を適切に行い、作業終了に向けて整理を行う。

[出典]

※1：国立環境研究所「九州北部地域での豪雨に係る災害廃棄物処理の現地調査報告（第2報）」

※2：内閣府「平成28年度避難所における被災者支援に関する事例報告書」

※3：多賀城市HP「たがじょう見聞憶」